

「白磁線文四方瓶」が寄贈されました

本校OBの和久井修さん(昭和51年卒、今泉在住)から、「白磁線文四方瓶」という花器を寄贈していただきました。この磁器は、通常のロクロ成型ではなく、タタラ(薄くスライスした粘土板)を張り合わせるタタラ作りという手法で作成されています。角形磁器の作成は大変難しく、特に大型になるほど難しいそうです。作品として仕上がるのは25個中4～5個ということで、その難しさがわかります。以前は、磁器にほどこされた文様に主眼を置いていましたが、ここにきて形に主眼を置くようになってきたとのこと。 「まだまだ途中の段階であり、さらに高みを目指していく。」との事でした。

和久井さんから「いつも生徒が見ることができる場所に展示して欲しい」というご希望があり、作品を管理棟西側階段の踊り場に設置しています。大事に鑑賞してもらいたいと思います。